

木曾川下流自然観察会

テーマ 「トンボを探そう」

日時 2015年7月12日(日) 19:30~12:00(晴)

参加者 一般:6名(うち子ども3名) 指導員:4名

朝、9時過ぎに138タワーパークに着き、木曾三川公園管理センターに行って8月の観察会の申請書を提出し、今日の観察会の許可書を受け取りました。先月の例会の時、管理センターの職員2名が集合場所の138タワー玄関前に来て、都市公園法に基づく許可申請を出すように言われ、手続きをしていたものです。尾張自然観察会では森林公園、小幡緑地、明德公園など他の都市公園でも観察会を開いていますが、そこでは許可申請などしていないはず。根拠の都市公園法第12条を読んでも、必要かどうか解釈が別れるところですが、公園の管理者側が必要だということで、面倒ですがやむを得ません。国(国土交通省)は管理が厳しいようです。

さて、観察会ですが、梅雨の合間の晴天で蒸し暑く、河原は木陰も少ないので熱中症に気をつけて回りました。

河原に降り、先月、アメリカネナシカズラが広がっていたところを見ると、すっかり刈られてわずかに残っているだけでした。しかし、逆に、茎をたどることが容易で、根が土の中にはなく、巻き付いている部分から寄生された植物の茎にアメリカネナシカズラの根が入り込んでいることが観察出来ました。

その近くの草の間からヌマガエルが出てきました。背中に隆起した部分があり、ツチガエルに似ていますが、腹が白いところが見分けのポイントです。

河原には先月も見つかったカワラサイコがいっぱい咲いていました。ちょうど花の見頃といった感じです。先月、参加していないメンバーもいたので、カワラヨモギ、カワラマツバ、カワラサイコの3種が見られる場所に行ってみました。カワラヨモギは先月より伸びていましたが、花にはまだ早いようです。その辺りにはジャノメチョウがたくさん飛んでいました。

この日のテーマはトンボです。尾部付属器や副性器など体の構造で雌雄が見分けられます。トンボの中にはシオカラトンボなど体の色が雌雄で異なるものもあります。でも、羽化したては雌雄同色で、成熟するにつれてオスの体色が変化していきます。今回も体色からシオカラトンボの雌だと思って捕獲した個体が、付属器などを見たら若い雄でした。(写真)

河原ではウスバキトンボとシオカラトンボだけでしたが、大野極楽寺公園の流れや138タワーパークの池ではショウジョウトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボ、オオシオカラトンボ、キイトンボ、クロイトンボ、ホソミイトンボなどが見られました。

今回も先月参加した小学生3名が来てくれ、捕虫網を振って虫捕りを楽しんでいました。

<その他観察できたもの>

ナミアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミ、ツバメシジミ、マルカメムシ、トゲシラホシカメムシ、ヒバリ、ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、トビ、メジロ、シジュウカラ、エナガ、ハシボソガラス、オオヨシキリ(声)、ウグイス(声)、カナヘビ



(観察会のようす)



(体色では♀と間違えそうなシオカラトンボの若い♂)



(ショウジョウトンボの♂)